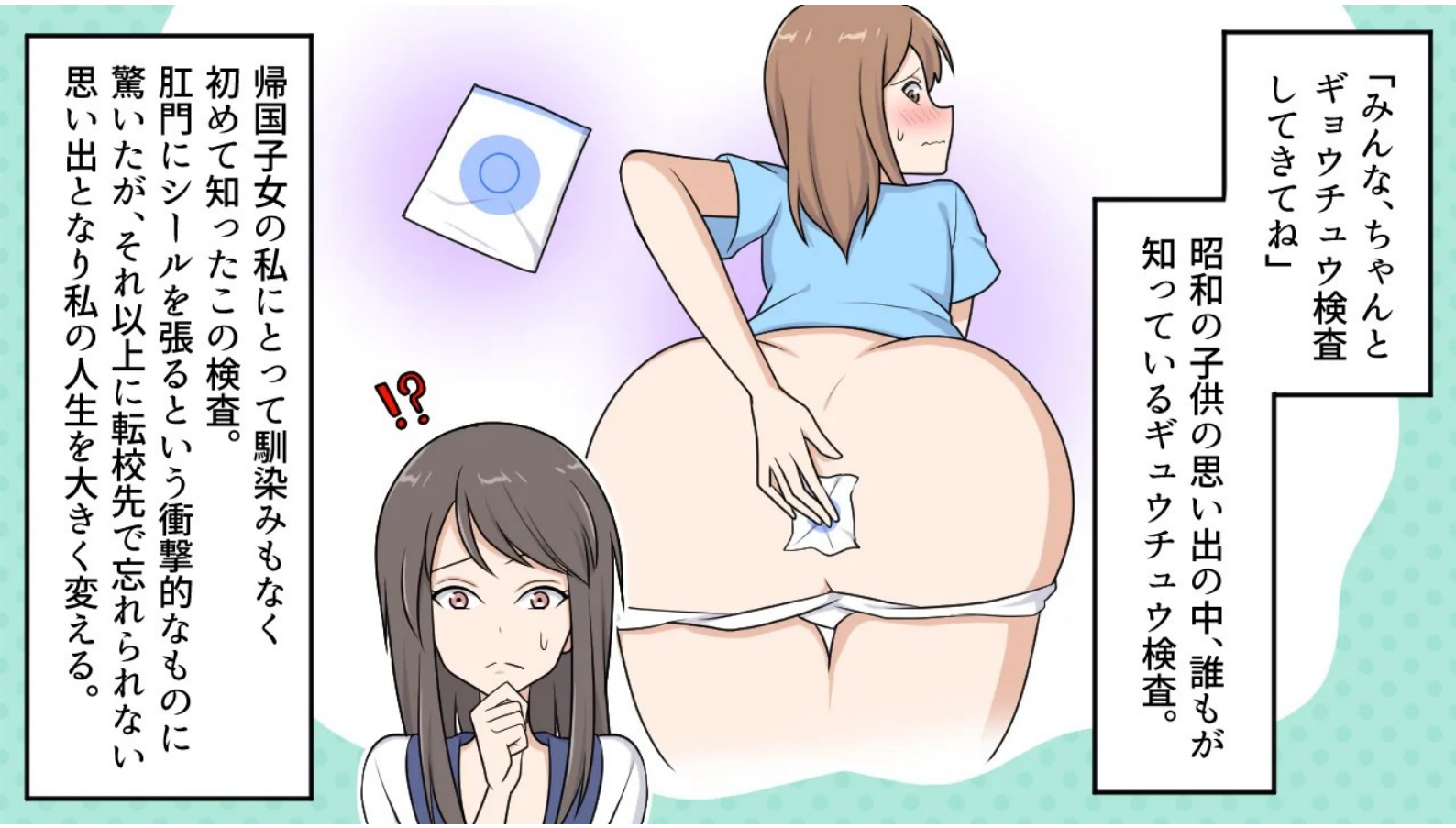
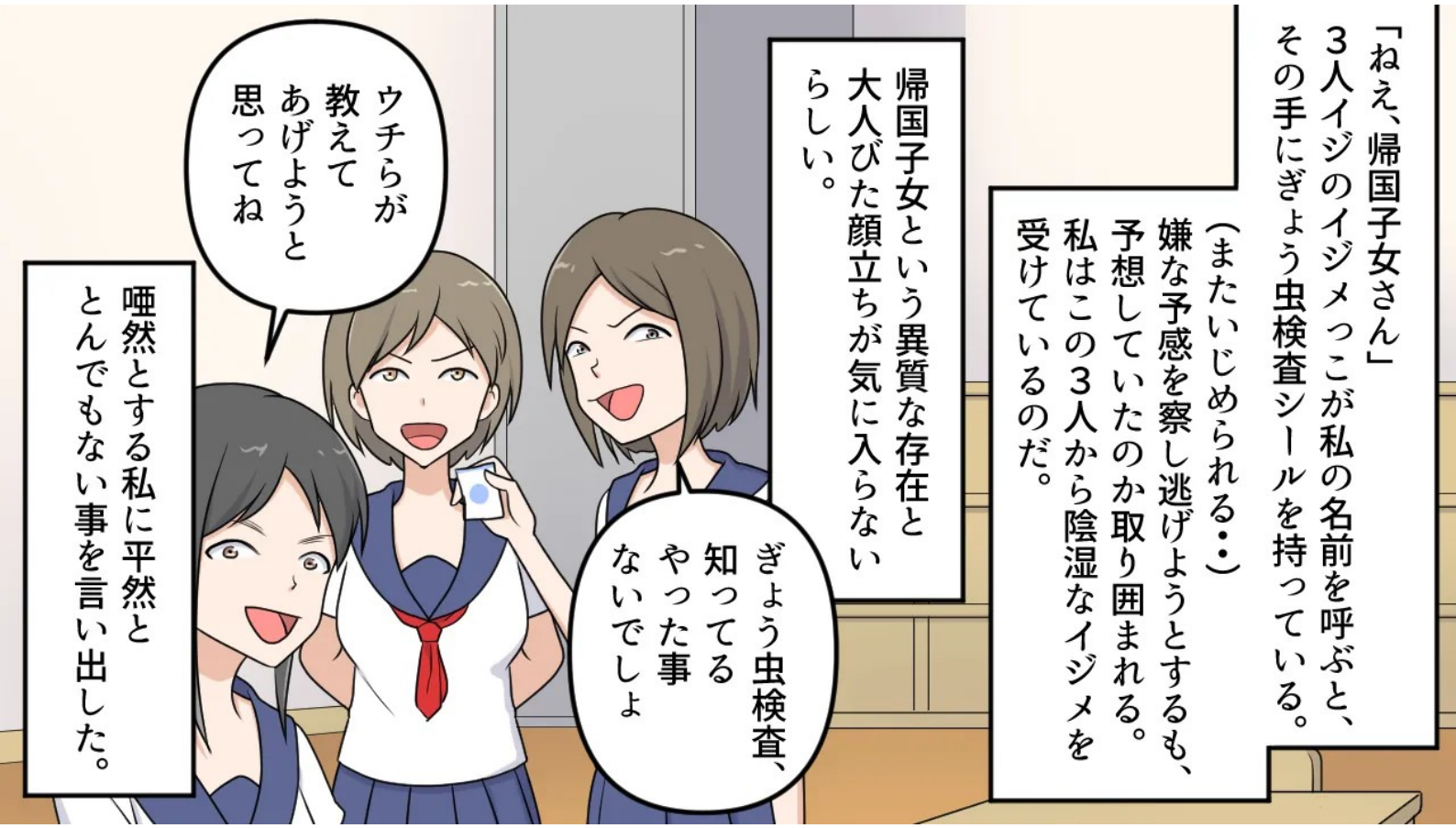
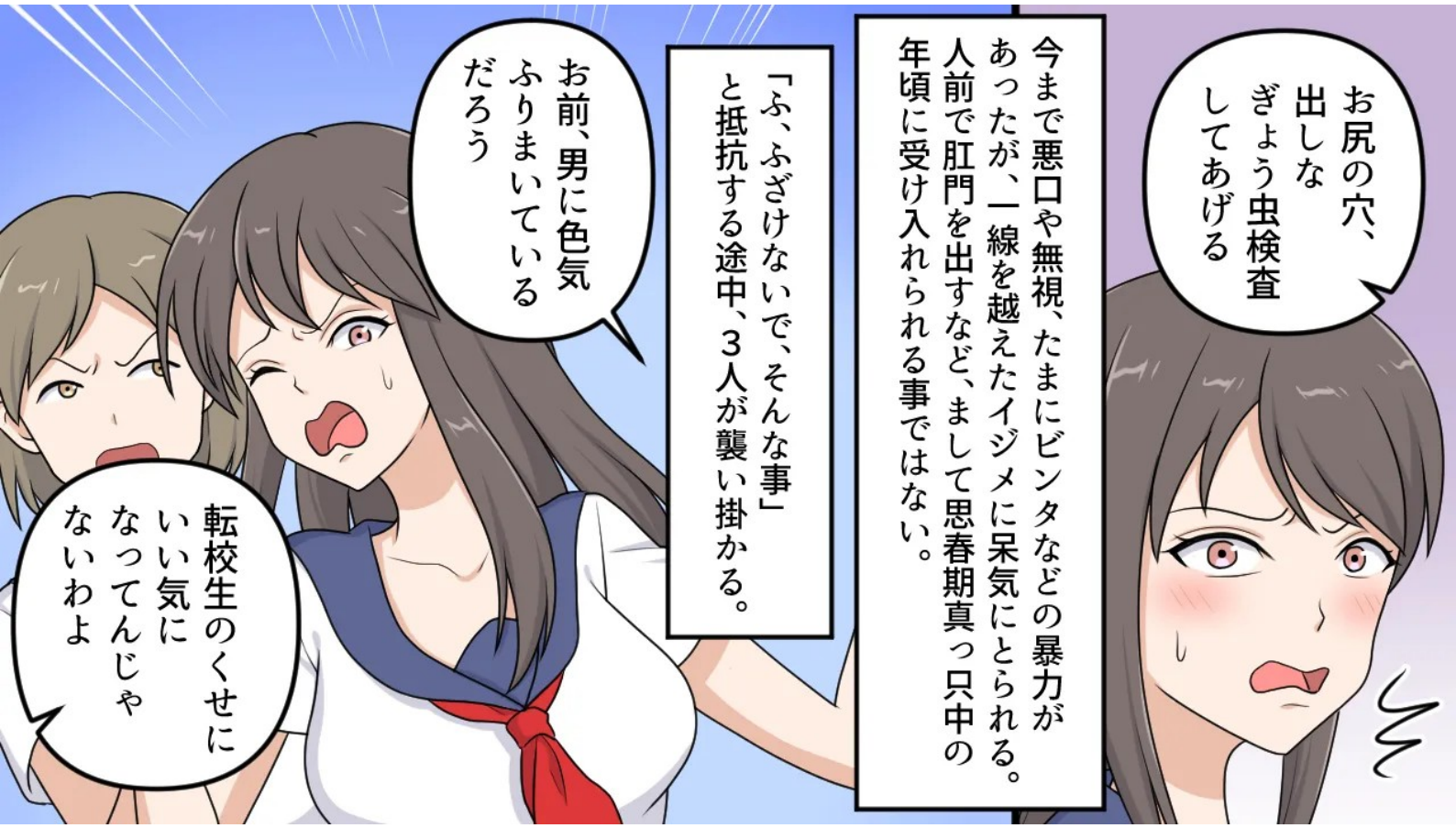
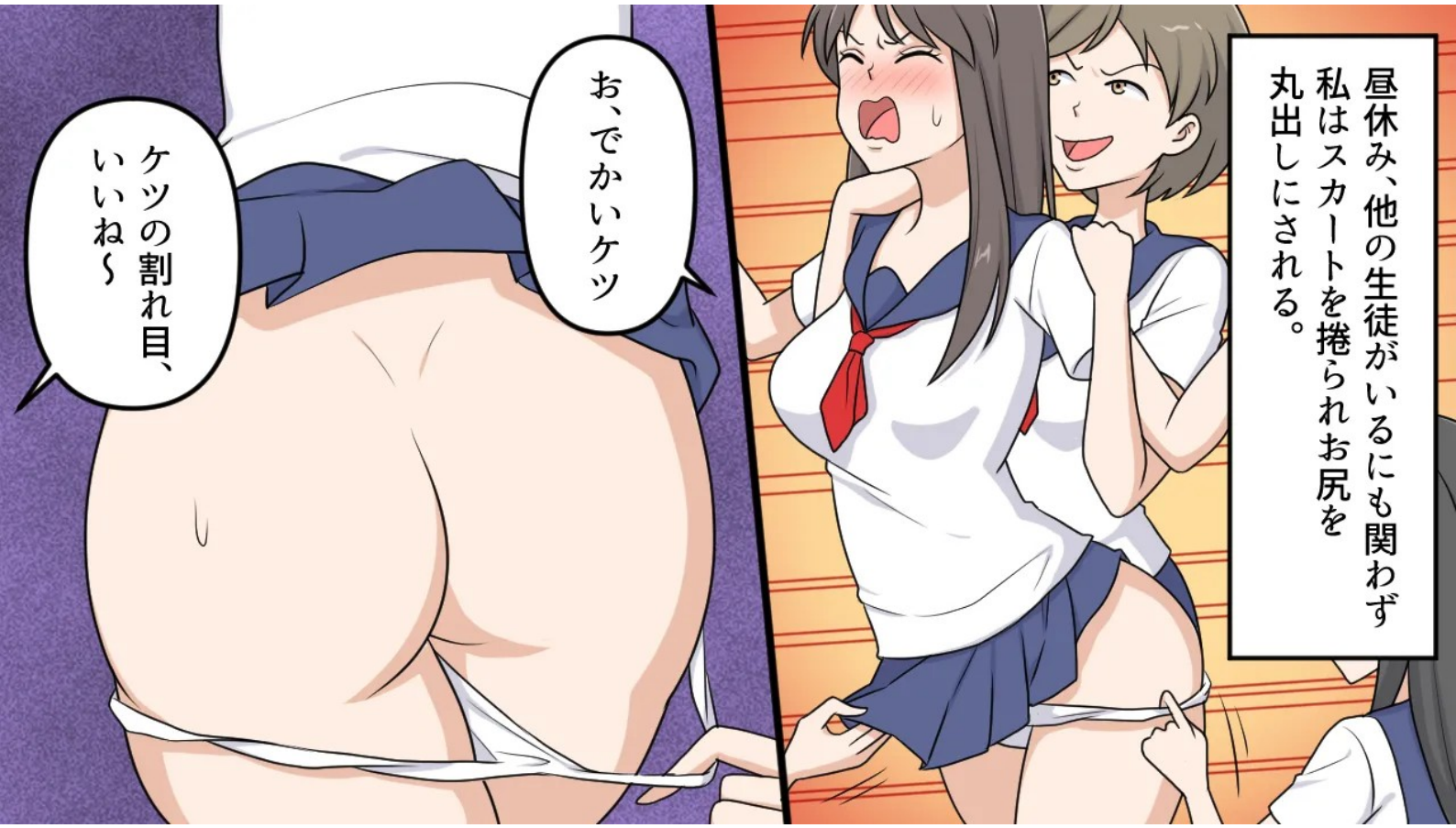
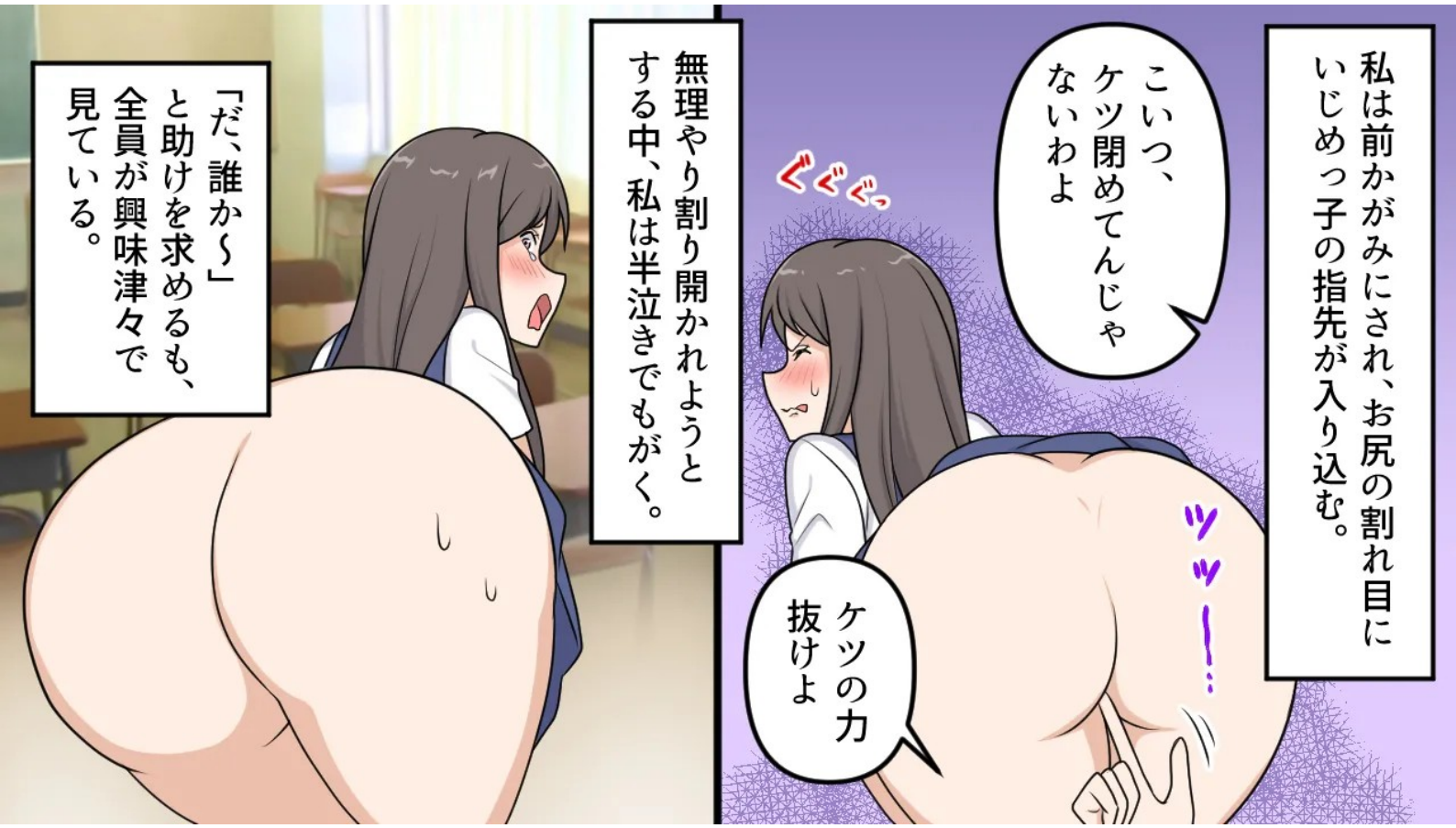

「みんな、ちゃんと
ギョウチュウ検査
してきてね」
昭和の子供の思い出の中、誰もが
知っているギュウチュウ検査。
!?
帰国子女の私にとって馴染みもなく
初めて知ったこの検査。
肛門にシールを張るという衝撃的なものに
驚いたが、それ以上に転校先で忘れられない
思い出となり私の人生を大きく変える。

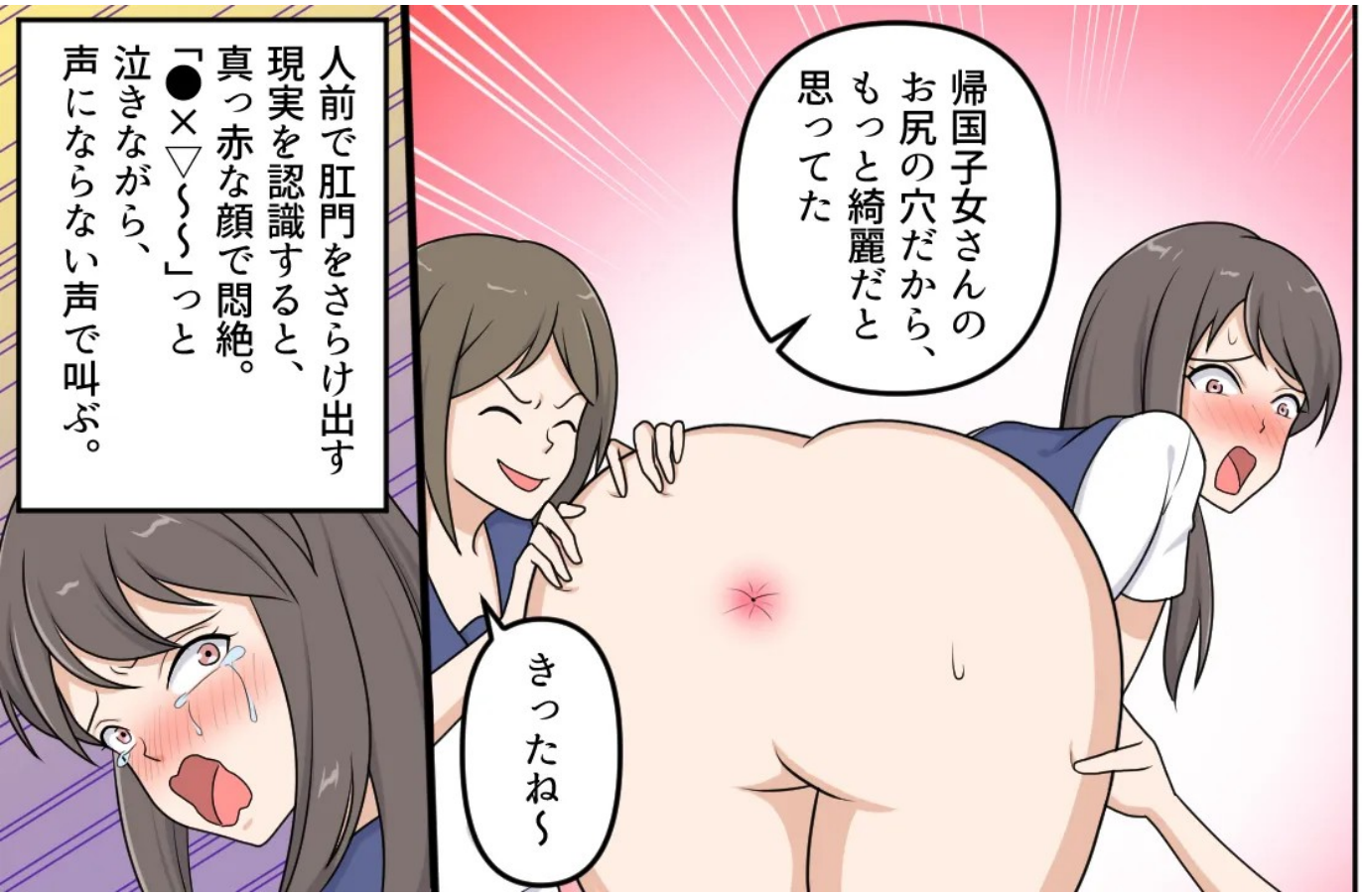

「ねえ、帰国子女さん」
3人イジのイジメっこが私の名前を呼ぶと、
その手にぎょう虫検査シールを持っている。
（またいじめられる・・）
嫌な予感を察し逃げようとするも、
予想していたのか取り囲まれる。
私はこの3人から陰湿なイジメを
受けているのだ。
帰国子女という異質な存在と
大人びた顔立ちが気に入らない
らしい。
ぎょう虫検査、
知ってる
やった事
ないでしょ
ウチらが
教えて
あげようと
思ってね
唖然とする私に平然と
とんでもない事を言い出した。


お尻の穴、出しなぎょう虫検査してあげる
今まで悪口や無視、たまにビンタなどの暴力があったが、一線を越えたイジメに呆気にとられる。人前で肛門を出すなど、まして思春期真っ只中の年頃に受け入れられる事ではない。
「ふ、ふざけないで、そんな事」と抵抗する途中、3人が襲い掛かる。
お前、男に色気ふりまいているだろう
転校生のくせにいい気になってんじゃないわよ

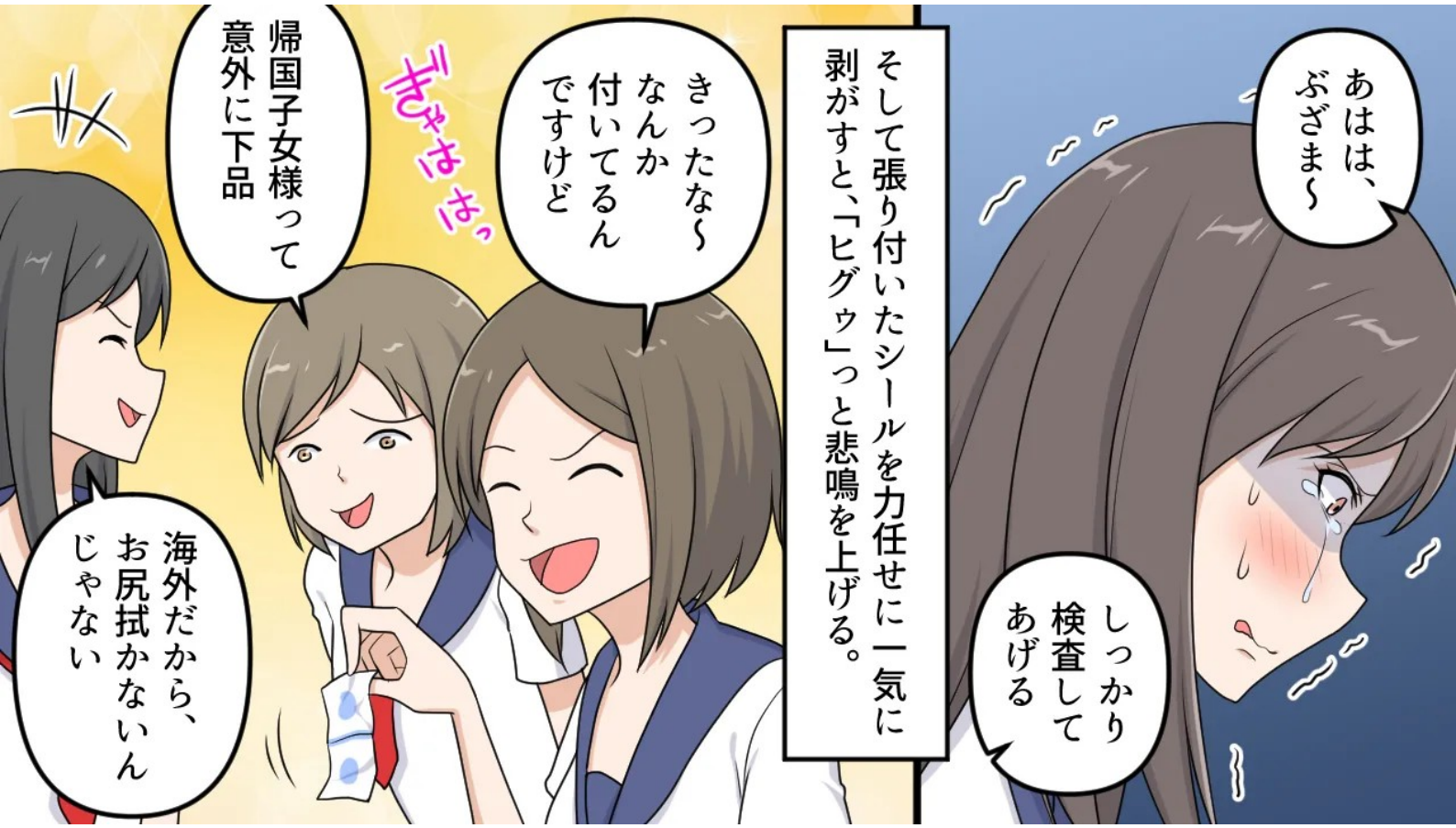

昼休み、他の生徒がいるにも関わず
私はスカートを捲られお尻を
丸出しにされる。
お、でかいケツ
ケツの割れ目、
いいね〜

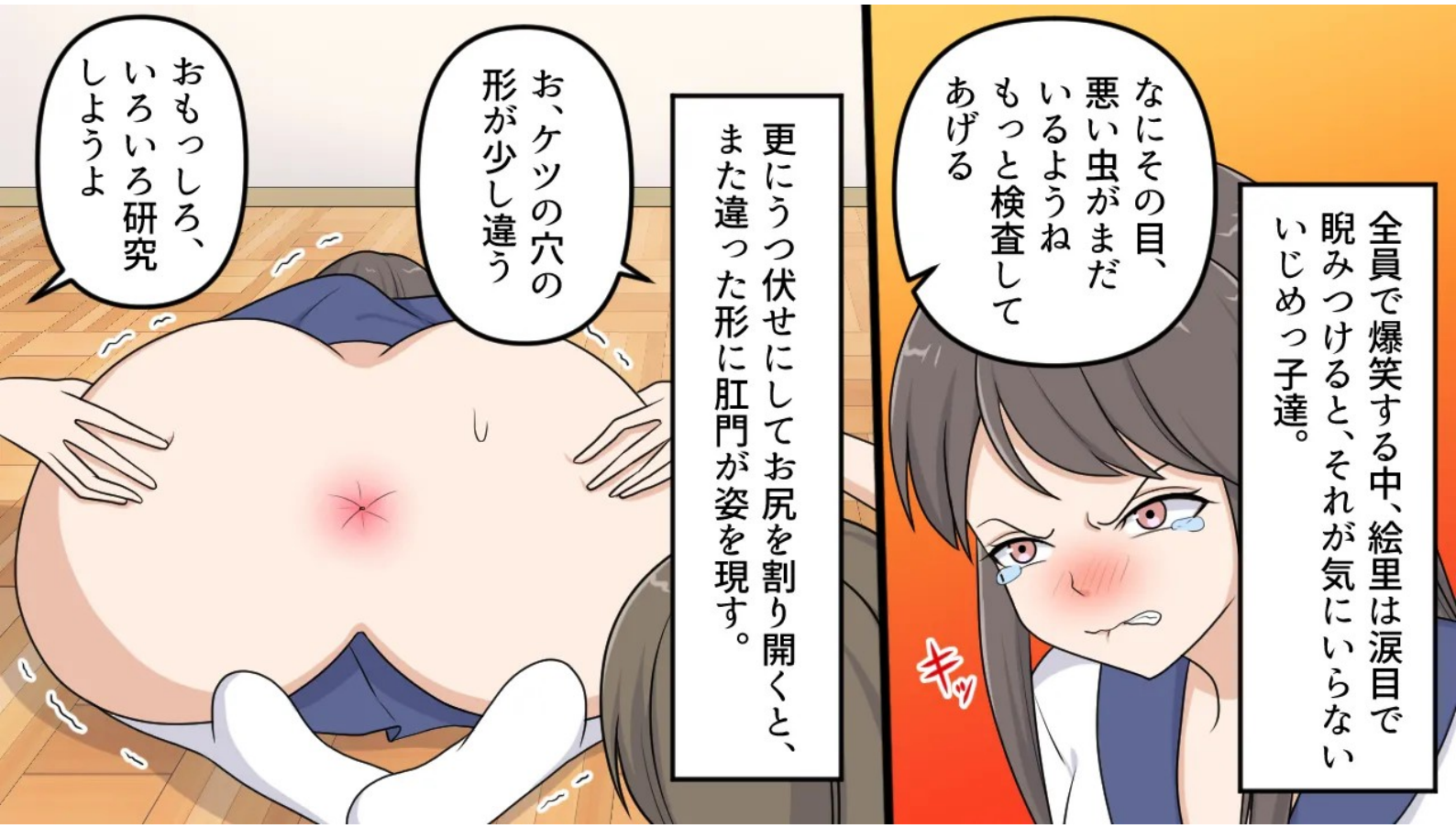

私は前かがみにされ、お尻の割れ目にいじめっ子の指先が入り込む。
こいつ、ケツ閉めてんじゃないわよ
ぐぐぐっ
ツツー!
ケツの力抜けよ
無理やり割り開かれようとする中、私は半泣きでもがく。
「だ、誰か〜」と助けを求めるも、全員が興味津々で見ている。

そして、これでもかと広げられたお尻。
数人の指先で無理矢理開かれ、真ん中の
ピンク色の肛門はこれでもかと露出している。



しかし手を緩める事なく更に肛門を開かれ、ギョウ虫シールを向ける。
バリバリとシールを剥がす音が鳴り響き「準備OK～いくよ」っと容赦なくシールを張り付けられる。
ひぃぃぃぃ～～っとあまりのおぞましさに全身が震える。敏感な場所を無視し、指先でグリグリと押し付けられる。
ブル
ブル
グリッ
グリ
グリッ


あはは、ぶざま～
しっかり検査してあげる
そして張り付いたシールを力任せに一気に剥がすと、「ヒグゥ」っと悲鳴を上げる。
きったな～なんか付いてるんですけど
ぎゃはは っ
帰国子女様って意外に下品
海外だから、お尻拭かないんじゃない


全員で爆笑する中、絵里は涙目で睨みつけると、それが気にいらないいじめっ子達。
なにその目、悪い虫がまだいるようねもっと検査してあげる
キッ
更にうつ伏せにしてお尻を割り開くと、また違った形に肛門が姿を現す。
お、ケツの穴の形が少し違う
おもっしろ、いろいろ研究しようよ

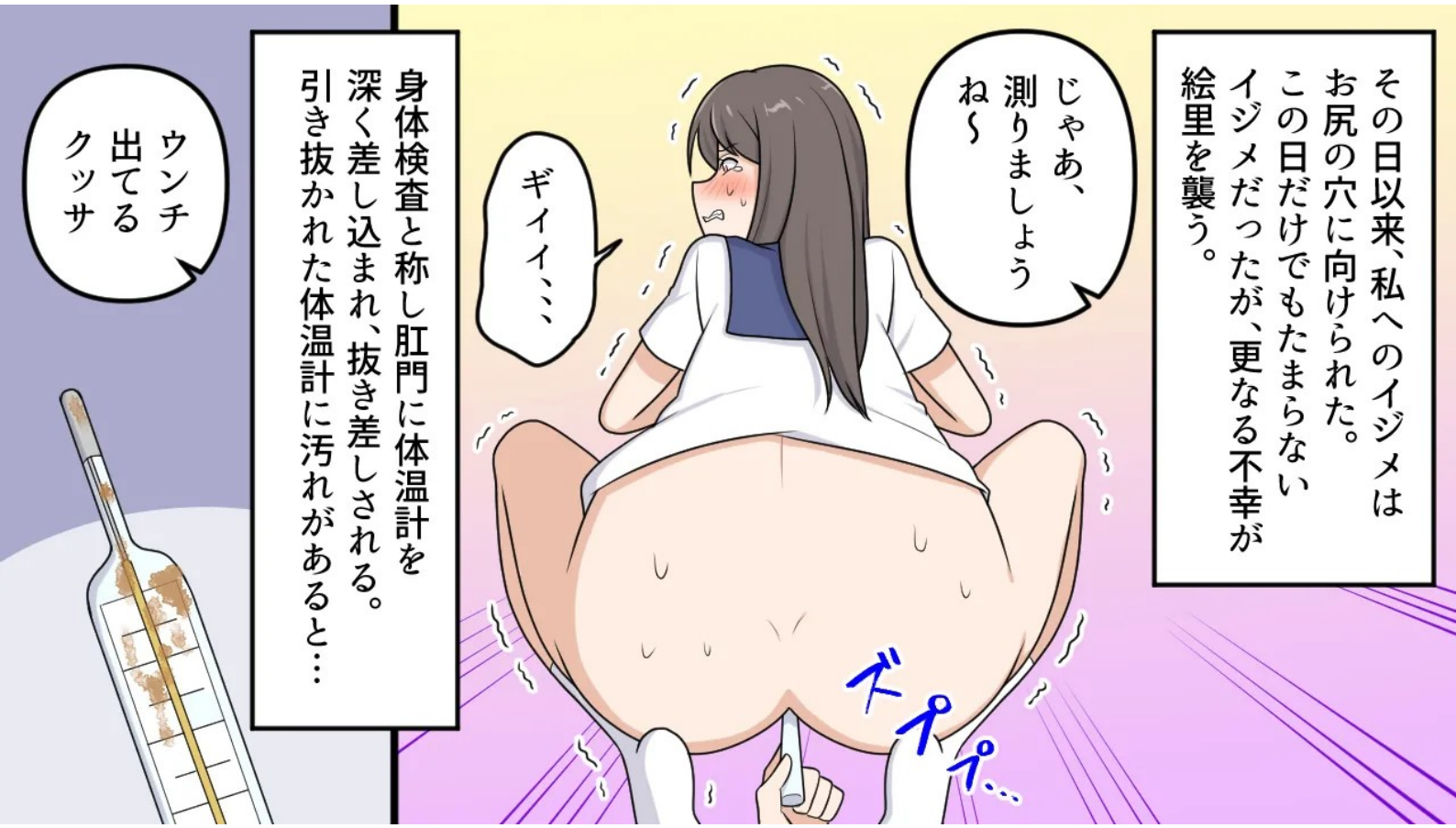
そのまま2回目のギョウ虫検査を
行った後、今度はウンコ座りにさせる。

おお、
いいケツ～

大人びた顔に加え、お尻の発育も良く、
形の整ったお尻。
そこに向け、またもギョウ虫検査を行う。

その後、絵里は開脚や四つん這いなど、様々なポーズを変えてギョウ虫検査を受ける。
みんな、ギョウ虫検査シールだして、絵里に全部使うわよ
なんとクラス全員のギョウ虫シールをされることに・・・。

「もっと見えるポーズがいいな」
すると不良女子は絵里を机の上で
まんぐりポーズにする。
足首が耳元にきて、お尻の穴を
これでもかと丸出しにするのだった。
あはは
シワの数まで
数えられそう
なんか
出てきそうね
そしてクラス全員分のギョウ虫シールを
何度も何度も肛門に張り付けられる。


その日以来、私へのイジメは
お尻の穴に向けられた。
この日だけでもたまらない
イジメだったが、更なる不幸が
絵里を襲う。
じゃあ、
測りましょう
ね～
ギイイ、、、
ズププ…
身体検査と称し肛門に体温計を
深く差し込まれ、抜き差しされる。
引き抜かれた体温計に汚れがあると…
ウンチ
出てる
クッサ

丁度いいわ、浣腸してあげようか
浣腸・・と聞き私は何の事か分からずに唖然としていると、目の前にイチジク浣腸を見せつけられる。
それを肛門に入れられ冷たい液体がチュルルルっと体内に入れられた瞬間生まれて初めての衝撃を感じる。

そして凄まじい激しい便意に
お尻を押さえている中、
その姿さえも笑いのネタに

キュルルルルッ

バタ

バタバタ

トイレに駆け込み
排便する姿も
見られてしまう。

ブリリッ

ブウッ

ビッ

それから今度は
浣腸イジメに変わり

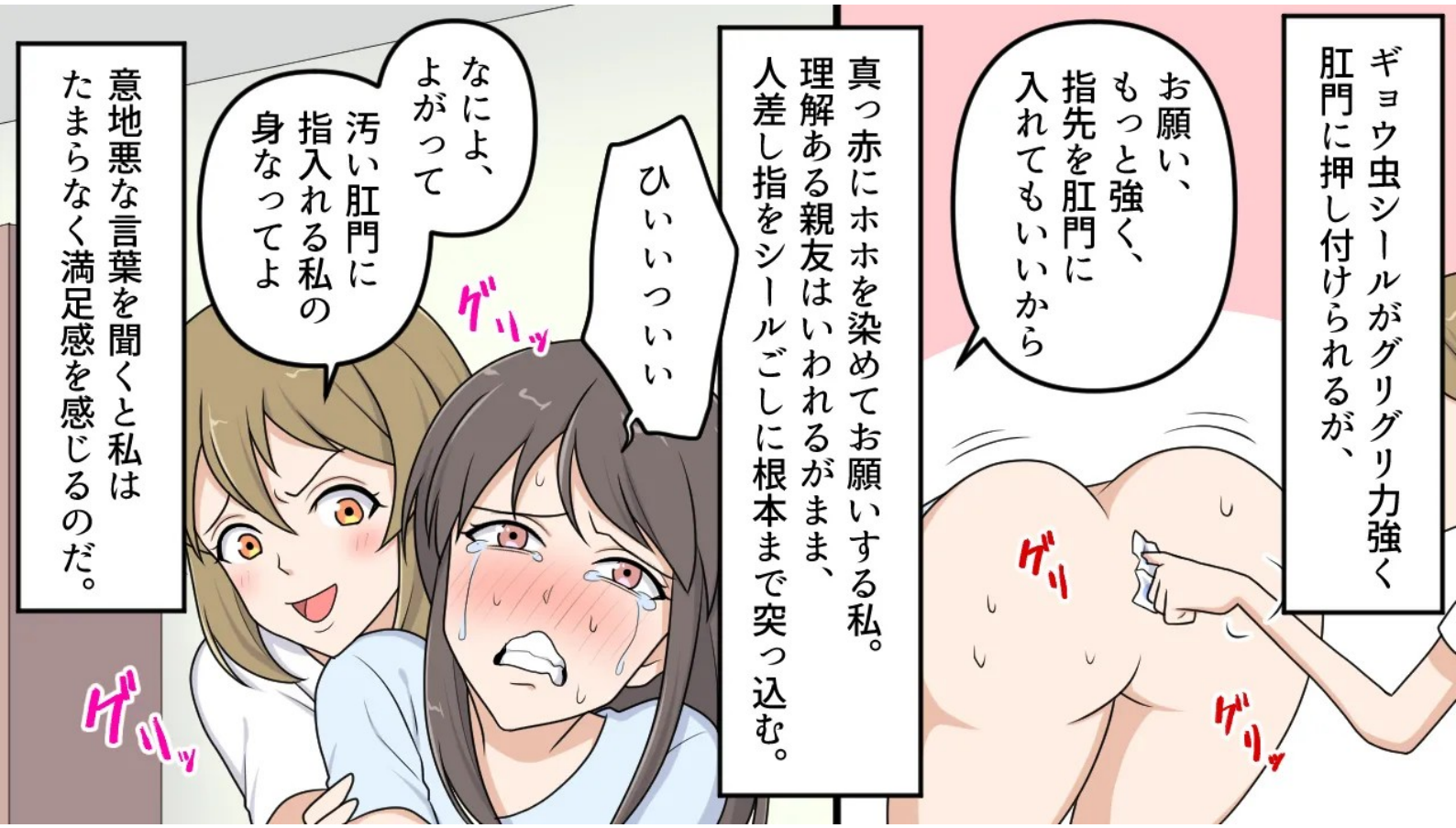
よ〜し、
今日はたったの
イチジク浣腸一つ
だから、我慢しろよ

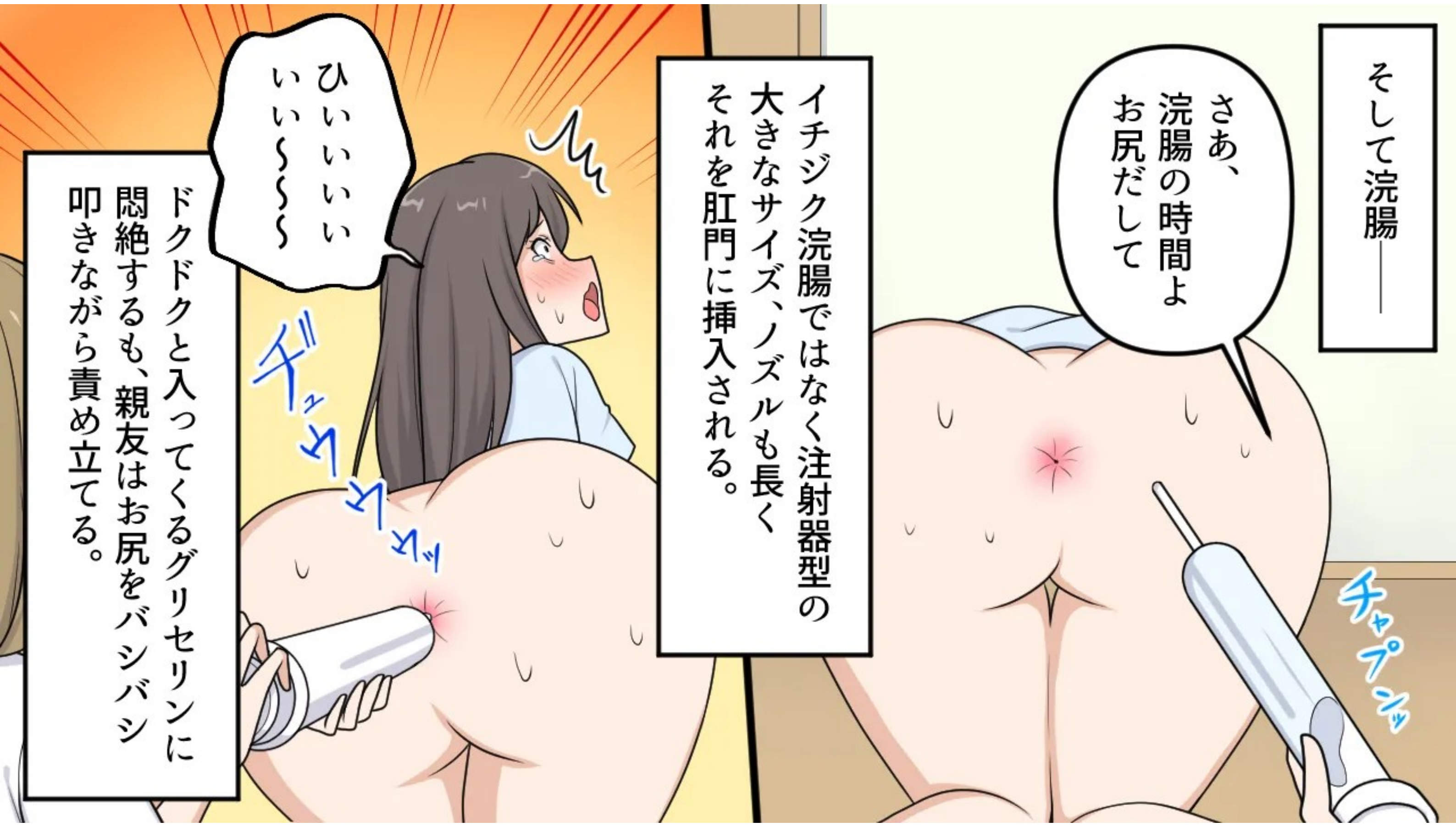
プル

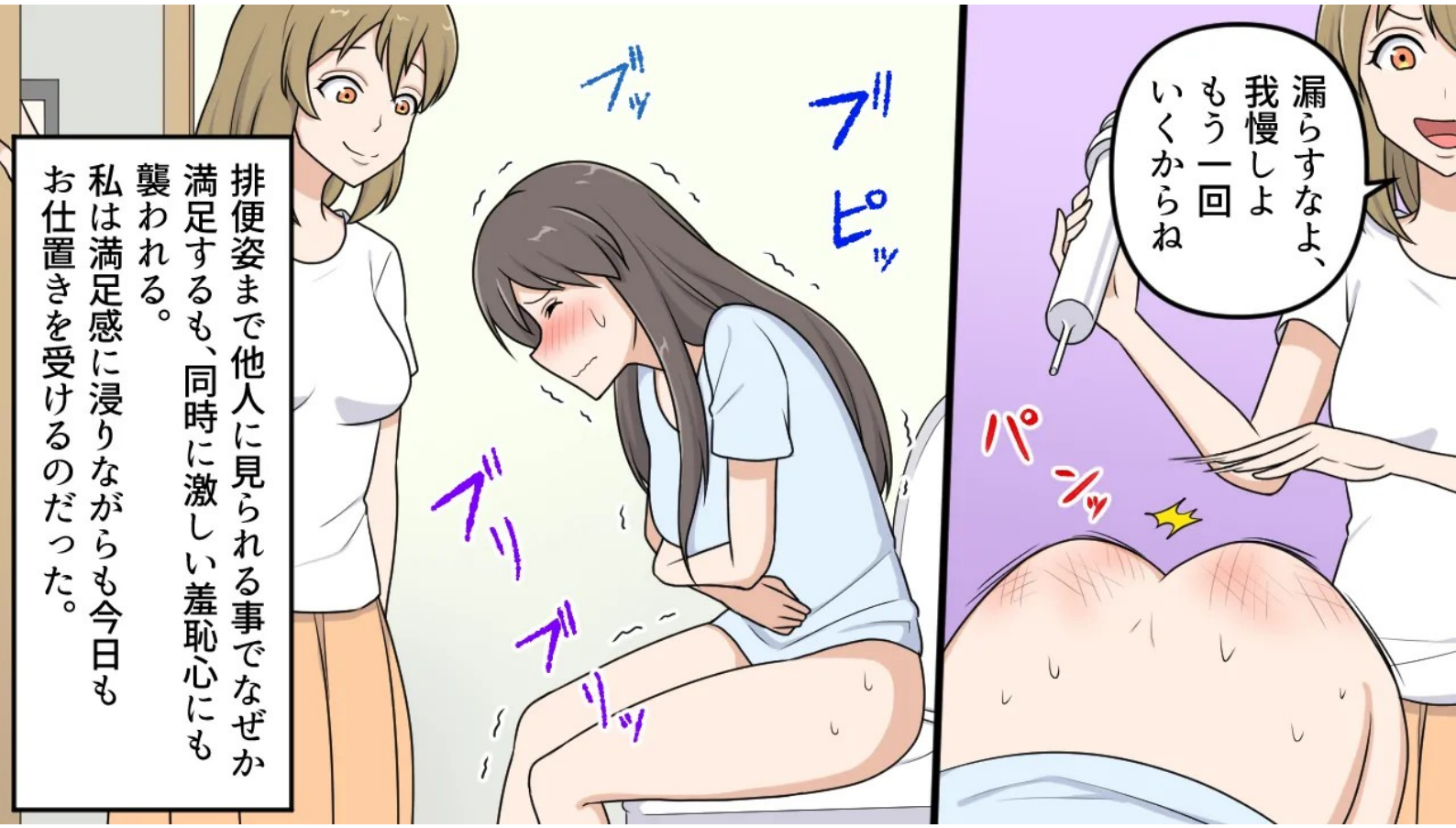
プル

浣腸を入れられて授業を受けさせられるのは
本当につらく惨めだった。
このような信じられないイジメが続き
地獄のような日々だった。

それから大人になると・・・
あの時のトラウマのせいか、私は当時のイジメを親友の看護師に再現してもらうという治療をお願いしている。
ギョウ虫検査するから、肛門出してね
「・・・もうゆるして」など抵抗する素振りはみせるが、内面では望んでいるのだ。当日の辛い記憶を呼び起こし、それを体験する事で精神を安定できるのだ。


ギョウ虫シールがグリグリ力強く肛門に押し付けられるが、
お願い、もっと強く、指先を肛門に入れてもいいから
ゲリ
ゲリッ
真っ赤にホホを染めてお願いする私。理解ある親友はいわれるがまま、人差し指をシールごしに根本まで突っ込む。
ひいいっいい
ゲリッ
なによ、よがって汚い肛門に指入れる私の身なってよ
ゲリッ
意地悪な言葉を聞くと私はたまらなく満足感を感じるのだ。


そして浣腸――
さあ、浣腸の時間よ お尻だして
チャプンッ
イチジク浣腸ではなく注射器型の大きなサイズ、ノズルも長く それを肛門に挿入される。
ひぃぃぃぃぃ いぃ〜〜〜
ヂュウウウッ
ドクドクと入ってくるグリセリンに悶絶するも、親友はお尻をバシバシ叩きながら責め立てる。


漏らすなよ、我慢しよもう一回いくからね
パンッ
ブッ
ブピッ
ブリブリッ
排便姿まで他人に見られる事でなぜか満足するも、同時に激しい羞恥心にも襲われる。
私は満足感に浸りながらも今日もお仕置きを受けるのだった。